

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	多文化共生のためのやさしい日本語普及事業 外国人と話ができる魔法のことは「やさしい日本語」ってどんなもの？ ～みんなにやさしい地域づくりを目指して～							
団体名	財団法人 香川県国際交流協会							

***** 事業のポイント *****

本事業は、各関係機関において在県外国人とのコミュニケーションを円滑化させるため、「やさしい日本語」の普及と活用を目的として実施した。特に、「やさしい日本語」が必要とされる場面の中から、災害発生時と学校現場の2つを取り上げ、テーマを明確化したことで、医療・消防・警察・教育等関係者の参加も多くあった。また、県内の主要な国際交流協会との共催により、当協会の所在する高松市以外の市町(まんのう町、東かがわ市、丸亀市、三豊市)においても研修会開催(年間9講座)が可能になった。

助成年度 区分	平成22年度地域国際化協会等先導的施策支援事業	事業総額	1,246千円
------------	-------------------------	------	---------

事業の内容、成果等

1 実施事業について

1-1 事業実施の背景と目的

香川県では、多言語での生活ガイドブックや会話帳を作成することで、様々な言語を使う在県外国人との共生を図ってきたが、これらは在県外国人側へのアプローチであり、先行するこれらの取り組みに対して、多くの県民に対する国際理解・多文化共生の促進が遅れている現状である。

このため、県民の多文化共生に対する意識の醸成を図り、在県外国人とのコミュニケーションを円滑化させるため、「やさしい日本語」でのコミュニケーションを広める事業を県内各地で展開することとした。

1-2 実施方法(工夫した点、苦労した点)

①テーマの設定

「やさしい日本語」が必要とされる場面の中から、災害発生時と学校現場の2つを取り上げることにした。

②県内広域での「やさしい日本語」の普及にかかる研修会を計画

県内ではほとんど知られていなかった「やさしい日本語」の概念や有効性について、できるだけ多くの県民に知ってもらえるよう、県内の主要な国際交流協会に共催を依頼し、高松市以外にも会場を確保した。また、参加者募集にあたっては、開催市町および同教育委員会への後援依頼や、自治体職員の派遣依頼も行い、最終的には高松市、まんのう町、東かがわ市、丸亀市、三豊市の5か所において、年間9講座を実施することとした。

③研修会の構成を検討

2つのテーマについて計3名を講師として招いたことで、個人のモチベーションやスキル、興味に合わせて参加する回を選択することを可能にした。

・「災害時のやさしい日本語」

第1回(基礎編)概要を学ぶ

第1回(実践編)より深く学びたい者を対象とした、実践的なワークショップを実施

第2回 概要から練習までを1日で学べる速習講座を実施

・「学校現場でのやさしい日本語」

④研修会の内容の工夫

- ・在住外国人の参加促進
- ・より実践的なワークショップ形式の導入
- ・多彩な講師

⑤広報

- ・行政、教育委員会、警察、消防、教員、報道機関への共催や後援、派遣依頼を積極的に行った。
- ・チラシに年間スケジュールを載せ、随時情報を更新していったことで、参加者は都合に合わせて選択できた。

⑥調整業務

- ・講師・他市町の国際交流協会・会場、それぞれの都合を調整しながら、日程や内容を組んでいく過程が困難であった。直接打合せをする場を何度か設けた。
- ・講師との連絡は当協会職員が集約し、他市町の国際交流協会担当者へ伝達するようにした。
- ・役割分担を明確にし、認識にずれがないか事前に確認することで、当日の作業は滞りなく進んだ。
- ・チラシやその他書類などの雛形を作成し、他市町の国際交流協会でも同じ物を利用できるようにしたことで、負担を軽減できた。



1-3 事業内容

年間で全 9 講座を県内 5 か所で開催し、全参加者は延べ 258 名にのぼった。

【第 1 回】災害時における「やさしい日本語」実践シリーズ 全 2 回 …実践編

「やさしい日本語」が被災者の命を救う?!～災害情報を誰にでもわかることばで伝えよう!～

講師:佐藤和之氏(弘前大学大学院教授)

対象:行政、消防、警察、教員、報道機関、通訳・日本語指導ボランティア、一般

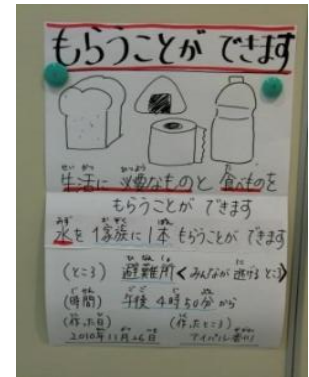
	内容	日時/場所	参加者数
A.講演	≪概要を学ぶ基本編≫ ・「やさしい日本語」の定義と有効性、作り方のポイント	平成 22 年 7 月 23 日(金) 13:00～16:15 高松テルサ 3 階会議室	56
B.ワークショップ	≪実際に使ってみる実践編≫ (A.講演の受講者に限定) ・避難所に掲示するポスターの作成 ・既存の「やさしい日本語」言い換えツール(やんしす等)の試用	平成 22 年 11 月 26 日(金) 12:30～15:45 アイパル香川 3 階会議室	23



まずは講演会で災害時の「やさしい日本語」の有効性について勉強。



概要がわかったら、次は使ってみよう！



実際に避難所に貼るポスターをグループで作成。

【第2回】災害時における「やさしい日本語」講演&ワークショップ…基本編の巡業

「やさしい日本語」が被災者の命を救う?!～災害情報を誰にでもわかることばで伝えよう!～

講師:水野義道氏(京都工芸繊維大学准教授)

内容:「やさしい日本語」の概要と作り方のポイント、災害時のラジオ原稿の言い換え練習

対象:行政、消防、警察、教員、報道機関、通訳・日本語指導ボランティア、一般

	開催地・場所	日時	参加者数
1	まんのう町・かりん会館	平成 22 年 11 月 27 日(土)10:00～12:30	18
2	東かがわ市・大内公民館 2 階会議室	平成 22 年 11 月 27 日(土)15:00～17:30	29
3	三豊市・三豊市役所西館 大会議室	平成 22 年 11 月 28 日(日)10:00～12:30	28
4	丸亀市・丸亀市生涯学習センター4 階講座室 1	平成 22 年 11 月 29 日(月)14:00～16:30	31



【第3回】学校現場における「やさしい日本語」ワークショップ『読めないお知らせ』

講師:木下理仁氏(かがわ開発教育センター理事・事務局長)

対象:教員、行政、消防、警察、報道機関、通訳・日本語指導ボランティア、一般

内容:読めない文字で書かれた「お知らせ」をもらった気持ちを実感する。

「修学旅行」「保健調査票」の「お知らせ」をわかりやすく作り変え、発表する。

	開催地・場所	日時	参加者数
1	東かがわ市・大内公民館 2 階会議室	平成 23 年 1 月 22 日(土)9:30～12:00	20
2	まんのう町・かりん会館	平成 23 年 1 月 22 日(土)14:00～16:30	17
3	高松市・アイパル香川 3 階会議室	平成 23 年 1 月 23 日(日)13:30～17:00	36



《プレワークショップ》

前日の講師との打合せの時間を活用し、当協会職員と既に日本語指導等で多文化共生に関する活動を行っている実践者を交えて、勉強会を行った。

日時:平成 23 年 1 月 21 日(金)16:00~18:00

場所:アイパル香川第 3 会議室

内容:多文化共生ワークショップ『ピンクんに何が起きたのか?』

対象:日本語指導実践者、当協会職員

参加者数:11 名



2 事業の具体的な成果

《成果》

①当協会の所在する高松市以外の市町(まんのう町、東かがわ市、丸亀市、三豊市)で開催したことによる成果:

- ・より多くの県民に、国際理解・多文化共生に対する意識を持ってもらえた。
- ・他市町の国際交流協会からも広報をしてもらうことで、当協会とは直接的な接点がない層へのアプローチが可能になった。(市町の自治体職員やボランティア等)
- ・他市町の国際交流協会と仕事を共にすることで、職員同士の連携が以前よりも深まった。
- ・その地に赴くことで、在住外国人の状況や、地域住民のかかわり方が把握できた。

②研修会そのものの成果:

- ・実際に言い換えの練習を組み込み、グループワークをすることで、「やさしい日本語」の難しさや必要性を実感してもらえた。また、参加者同士の交流も深まった。
- ・在住外国人に対し積極的に参加を促した結果、述べ 11 名(中国・台湾・フィリピン・ポーランド・ブラジル・グアテマラ)の参加があった。実体験に基づく話をしてもらうことで、参加者に多くの気づきがあり、「やさしい日本語」の必要性をより実感してもらえた。また、日本人と外国人が、共に暮らす隣人同士として同じグループで意見を出しあうことで、交流や相互理解が深まった。

③その他の成果:

- ・テーマをはっきり打ち出したことにより、ボランティアだけでなく、災害時—防災・消防・警察・医療関係者、学校現場—教育関係者等に参加してもらうことができ、それらの人々とのつながりができた。

《波及効果および進展》

- ・本研修を受講後、参加者(県内大学日本語講師)が、言語文化学科 3 年生 6 名に対して、外国人を対象に提供される言語サービスのひとつとして「やさしい日本語」を取り上げ、講義を行った。
- ・東かがわ市国際交流協会が実施する日本語教室のボランティアを対象とした勉強会で、参加者(大学准教授)が「やさ

しい日本語」を取り上げ、言い換えの練習をしたとの報告を受けた。

- ・まんのう町国際交流協会主催の外国人向けの防災訓練で、「やさしい日本語」のチラシを作成していた。また、当日多言語通訳だけでなく「やさしい日本語」の話者を手配していた。
- ・本研修を受講していた丸亀市役所職員から、河川増水の警戒を呼びかけるアナウンスをする際に、「やさしい日本語」を実践したと報告を受けた。日本人からもわかりやすかったと好評だったようである。
- ・香川県国際課が主催する「在県外国人のための防災対策担当者連絡会」(平成 23 年 6 月)で、当協会職員が講師となり、「やさしい日本語」の概要説明とワークショップを行った(参加者 21 名)。
- ・東北地方太平洋沖地震多言語支援センターに職員を派遣した際(平成 23 年 3 月)、本研修会の講師が「やさしい日本語」翻訳に携わっており、実際の災害時における「やさしい日本語」への認識をさらに深め、ノウハウを学んだ。
- ・夏休みに外国につながる子どものための「こどもにほんご教室」を開催した際(平成 23 年 8 月)、中国語・英語に加え、「やさしい日本語」のチラシも作成し、保護者への広報を図った。
- ・当協会主催のかがわ国際フェスタ 2011 において、防災コーナーを設け、「やさしい日本語」でのチラシや掲示による情報提供に努めた。
- ・共催団体である丸亀市国際交流協会は外国籍児童・生徒が多く在籍する地域にあることから、平成 23 年度「外国にルーツをもつ子どもたちの学習サポーター養成講座」の実施に際しても、スムーズに協力体制がとれた。

3 今後の展開、展望及び課題等

- ・当協会の在住外国人向けパンフレットやホームページを「やさしい日本語」で作成する。
- ・当協会主催の日本語講座における防災訓練や、通訳等ボランティアや在県外国人を対象にした避難所体験の実施を検討している。
- ・今回築いた防災・消防・警察・医療・教育関係者との人脈を活かし、各機関が在住外国人向けパンフレットを改訂する際には「やさしい日本語」および多言語での作成を促す。
- ・香川県国際課と連携し、各地域の日本語教室を中心に、在県外国人を対象とした防災訓練キャラバンを行う(平成 24 年度実施予定)。